



# ももちゃんニュース Vol. 4

インフルエンザが猛威を奮っています。高熱が出てしんどくなりますが、**薬で脳症にならない為**に解熱剤の使い方に注意しましょう。

## 発熱も自己防衛システム

ウイルスや細菌感染による発熱は、免疫機能（38～40℃が最も力を発揮する）を高めたりウイルス増殖を防いだりする自己防衛システムの1つです。

## 解熱剤の使用

原則として心肺や脳に疾患（基礎疾患）の無い人への解熱剤の使用はお勧めしません。しかし、過度の発熱による苦痛や体力消耗が有る場合や基礎疾患のある方は使用しても良いでしょう。

通常38.5℃以上の発熱が続き「全身倦怠感で辛い」「水分・食事が取れない」「眠れない」等の症状が有る場合のみ使用して、ただ「熱が高いから」との理由での使用は控えましょう。高齢者や熱性けいれんがある小児は38℃が目安です。

体温を下げるには、わきの下や首の太い血管が走っている所を冷やすのが効果的です。熱さましのシートを小児に使用する際には、ずれて窒息しないように気を付けて下さい。水分補給は十分に行ってください。水や白湯よりもスポーツドリンクやOS-1の方が吸収しやすいので沢山飲めない時にはお勧めです。

## 注意

感染による発熱で解熱剤を使うと、原因菌をやっつけようとする生体の免疫反応の一部が暴走し、身体自体を傷める原因となり治癒を遅らせる事があります。最悪の場合には脳症を引き起こしてしまうとの報告もあります。特にインフルエンザや水痘の高熱の場合には注意が必要です。アセトアミノフェンは比較的安全と言われています。市販の風邪薬にはインフルエンザの発熱時にお勧めできない成分が入っている場合もありますので、注意が必要です。

### ☆☆ワンポイントアドバイス☆☆

使用後のマスクの本体には沢山のウイルスが付着しています。使い方を誤ればマスクから感染を広げてしまう事になります。



## えむ調剤薬局

〒769-0101 高松市国分寺町新居 1359-4  
TEL:087-875-9272 FAX:087-875-9271

ホームページでブログ更新中！！

